

全国戦没者遺族代表者会議 「要望事項実現を目指して」

日本遺族会は、6月30日に自由民主党会館で、来年度予算の概算要求に向け、平和の語り部の拡充強化等の要望事項の完全実現を目指して、関係省庁や自由民主党国会議員を来賓に招いて全国戦没者遺族代表者会議を開催しました。

本県から三宅理事長ら4名が参加し、会議終了後、小野田紀美大臣や地元選出の自民党衆参国會議員に平和の語り部事業の拡充強化をはじめとする遺族会の要望事項の実現を要請しました。

また、前日の29日には、昭和百年記念「平和の語り部大会」が、同じく自由民主党会館で「記憶継承」をテーマに、盛大に開催されました。日本遺族会より開催意図や全国の事例が紹介され、



その後、体験者、次世代の方から講話が披露されました。
(写真は大臣室での陳情の様子)

昭和百年記念「平和の語り部第一回定期講話会」

県連盟では、本年、昭和百年の節目を迎えることから、昭和百年記念と銘打ち、戦争体験者の記憶の次世代への継承に向けて、語り部の発掘・育成に繋げるとともに、広く語り部を周知する場として定期講話会を開催することとしました。

5月5日の県護国神社での第1回講話会では、倉敷市遺族連合会の諏訪妙子女性部長が「従軍看護婦として召集された母」、小田郡遺族連合会の竹内正弘会長が「戦艦大和で戦死した叔父」と題して、それぞれ語り部講話をしていただきました。

当日は、春の岡山県戦没者慰霊祭の祭典終了後ということもあって、百人を超える大盛況となりました。



定期講話会は、今年度4回実施予定です。
(写真は講話中の諏訪女性部長)

県連盟平和の語り部大会 「第2回定期講話会」

県連盟では、終戦から80年の節目を前に、7月30日(木)に岡山市内で、遺族に加え、一般の方や報道関係者ら約百名の参加を得て、語り部の拡充強化に向けて「平和の語り部大会」を定期講話会と兼ねて開催しました。

大会では、まず総社市遺族連合会の塩出裕衛会長代行が「父の戦死と私の願い」、横田秀夫副会長が「父の最期を伝える上官からの手紙」、浅沼艶子女性部長が「戦死した二人の父」と題して、それぞれ語り部講話を披露されました。

続いて、日本遺族会の細貝洋子平和の語り部事業本部長から「誰もが語り部になるために」と題して、熱心かつ具体的な説



明があらまし、岡山県庁の作成した動画の紹介もありました。
(写真は講話中の浅沼女性部長)

県連盟合同研修会を開催

令和8年度合同研修会を5月26日(火)から2日間、高知県方面で三宅理事長をはじめ38名が参加して実施しました。

初日は、南国市の史跡に指定されている太平洋戦争当時の「前浜掩体群」航空機格納庫を見学した後、高知県遺族会の平和の語り部事業への取組について、説明を受けるとともに、同遺族会の大石会長、岩村事務局長と意見交換を行いました。

翌日は、県立牧野植物園や高知城を見学して帰路につきました。



(高知県護国神社会議室にて)